

# 班別活動報告

## 1班 私たちのワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

「ワーク・ライフ・バランス」いわゆる「生活と仕事の調和」が図られていない時、その背景に男女の性差が関係している事が多い。

女性も男性もすべての人が、自らの能力を最大限に発揮するための機会が得られる社会にしていくために、何が必要か。

具体的に、市民に向けての啓発を図るきっかけとなるよう、身の周りにいる人々のワーク・ライフ・バランスに関わる問題点から、男女共同参画を考える材料を提示する。



《リーダー》  
中村 京子

《サブリーダー》  
山田千恵美

《メンバー》  
上條 孝子／末木美津子／関 和美  
柳本タカ子／渡辺 貞男

### \*\*\*班活動の軌跡\*\*\*

- 2020/ 9 自己紹介・コロナで変わったワーク・ライフ・バランスについて
- 2020/10 コロナで変わったワーク・ライフ・バランスについて(家庭編)意見交換
- 2020/11 コロナで変わったワーク・ライフ・バランスについて(仕事編)意見交換
- 2020/12 意見交換のまとめと今後についての話し合い
- 2021/ 1 甲府市市民意識調査の読み合わせと、身近な声を拾いあげる調査を検討
- 2021/ 2 「家庭・地域・職場で感じる男女差について」身近な声を調査
- 2021/3・4 全体で行う会議があったため班活動はなし
- 2021/ 5 ワーク・ライフ・バランスを具体的に市民に向けてどのように啓発するかを考える
- 2021/ 6 ワーク・ライフ・バランスの観点から「見えない家事を可視化する」パネルを作成
- 2021/ 7 令和2年版内閣府男女共同参画白書「特集：ワーク・ライフ・バランス」読み込み
- 2021/ 8 新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため班活動中止
- 2021/ 9 第7期活動報告書紙面構成に関するミーティング
- 2021/10 1班活動のまとめ「パネル」について
- 2021/11 1班活動のまとめ「活動報告会」について
- 2021/12 活動報告書更正

## 報告～コロナの現状を肌で感じて～

私たちが経験した、コロナ禍での「ライフ」や「ワーク」の変化

### \* 自治会活動では

自治会、連合会の行事のほとんどが中止で、**組回覧の内容も行事中止のお知らせが大半を締めているという状態**が今もまだ続いています。

私が担当している愛育会においても、声かけ、見守りといった活動が思うように出来ず、甲府市の委託事業も再開時期の見通しがまだ立っていません。

**感染対策で身体的距離を確保しなければならない中、人と人とのふれあいが薄れている**のを感じます。

そんな中、2021年9月末、地区のある自治会長の呼びかけと連合会の協力で、しっかりとした感染防止対策をとりながら、荒川付近の桜公園の清掃が行なわれ、100名近くの参加者が集まったそうです。

コロナ禍の中でも、**地域にあった活動のアイデアを日々模索し、行動に移していけたら**と思いました。

### \* 介護の現場では

当初、コロナが流行しはじめての頃は、マスク、手袋の不足が叫ばれていましたが、私の勤務先は、幸いなことに、備蓄と寄付で不足することなく介護ができました。

**コロナが流行し、家族と直接触れ合ったり声を交わしたりができない中、ガラス越しでの面会の実現や、ホームページに元気な姿をマメにのせたり、施設だよりで対応しました。**「コロナが収まったら、外でご飯を食べたり外出したりしようねえ」と、利用者に話してきましたが、2年近く経つ未だに実現していません。私達職員も、手洗・うがい・消毒・マスクと、外出するときは最善の注意を払い、職場に絶対にコロナを持ち込まないよう努力してきました。おかげさまで、私の職場ではコロナ陽性者が出る事なく過ごせています。

今では、検温1日4回、ゴーグルやマスクや手袋の着用を日常のこととして、日々気を付けて、高齢者に対応しています。2021年10月現在、かなり陽性者数が減少していますが、この少し落ち着いている間に、来月は利用者の皆さんと紅葉ドライブの実現を検討しています。**1日も早くコロナが終息して、気兼ねなく人々と触れ合える普通の生活が送れるように、心より願っています。**

### \* 個人の家庭では

私の家庭ではコロナ禍で外出の機会が減り、家で過ごす時間が増えたため、**休日には夫が食事を作ることが多くなりました。**普段とは違うメニューを味わえたり、手作りスイーツを食べられたりし、さらに**自分の時間が取れてうれしい**です。また、近くのカフェに足を運ぶことが多くなり、心に余裕が生まれました。

そして夫のリモートワークが増えたことで、夕食の時間をゆっくり取れるようになりました。**家族での会話の時間が増え**、娘の学校の様子を知ることができたり、お互いの興味の話で盛り上がりつつあります。学校行事等が減ってしまい、残念なことも多いですが、家族で過ごす時間が増えて話題が広がったことで、**社会問題についても考えることが多くなりました。**

## \* 男女共同参画推進委員会活動では

コロナ禍前は、推進委員会として委員全員が同時に集まることができて、**NWEC（国立女性教育会館）でワークショップを開催したり、各地開催の日本女性会議に参加したり、委員会としての研修や推進活動を皆で一緒に行うことができて、委員同士の新たな交流も生まれましたが、コロナ禍で状況は一変してしまいました。**

2020年4月から7月は見通しの立たない**コロナ禍**で不安な中、30名以上の委員が同時に集まることができず、**推進委員会の活動も延期が繰り返されました。**その後も、コロナの波が来るたびに活動が中断され、去年までのような啓発活動に地域に出て行くことも叶わず、推進委員として残念な思いをたくさんしました。

**日本女性会議 2021 in 甲府**も、会場となる甲府に全国から男女共同参画活動を進める皆さんに集まってもらえるのがギリギリまでわからず、9月はじめに**完全オンライン開催**が決定となって、全国の皆さんとの交流が実現しなかったのが本当に残念でした。

その一方で、直接会えないなら、どういう工夫ができるか、皆で知恵を出し合って、少しでも良いものを日本女性会議にオンライン参加してくださる皆さんに経験してもらえよう、日本女性会議の**第二分科会**に関わる皆でチームとなって実現を目指したのはかけがえのない経験となりました。

コロナ禍がなければ、**zoom 利用で遠隔地の皆さんと意見を交わすことができる**と知ることもしなかったでしょう。その意味では、世界が広がったとも言えます。

## \* 孫の大学生の様子は

自分の望む大学の門をくぐる為に3年間頑張ってきた高校生活、そしてやっと掴んだ夢と希望の大学生活、でも**現実とは全く違うスタートとなりました。**コロナという私も長い間生きてきて初めて聞く感染症の為に、日本が世界が一変してしまいました。世界中みんなマスクをしている異常ともいえる日常。日本の子ども達も卒業式、入学式という**人生に一度しかないイベントも中止になり、今まで普通だったことが全く出来なくなりました。**

うちの孫も一人暮らしを始めるために部屋を決め生活道具も揃え、胸を躍らせていたのですが我慢の連続の日々のスタートになりました。新しくできるはずだった大学の友達とは会うこともできず朝からオンライン授業、**教授たちも慣れないオンラインの操作に試行錯誤だったようです。**いったいこの状態がいつまで続くのか？誰にも分らないまま1年近く続き、**本当に自分は大学生になったのか？考える姿もみられました。**不安やいらだちが、少しでも和らぐように家族もできる限りラインや電話をして孫が声を出して話すようにバックアップしました。

ワクチン接種が進むにつれ、コロナ感染者が少なくなりこのまま終息することを心から祈ります。一日も早く大学生も普通の生活ができるように、**キャンパスで笑って友と話ができることを願っています。**

## \* 飲食業では

飲食業関係では店を維持管理していく事がとても大変になり、**ダブルワークを始める店主もいれば、店を閉める店主も出ました。**山梨県のグリーンゾーン認証を取得するのにもメール添付など高齢者の店主は行うことができず、取得を諦めるケースもありました。

また、新基準の「変異株対応のやまなしグリーンゾーン認証」の認証取得には空気清浄機などの高額な機器購入が必須で、それに対する県からの給付金は購入証明を提出後のため、ハードルが非常に高いと嘆く店主もいますし、新たなグリーンゾーン認証のガイドラインを知って**店の継続を諦め閉店する店主**もいます。コロナ禍が始まり約2年になりますが、**コロナ前のような景気は戻る様子は全くなく、飲食業者はいまだにダブルワークで凌いでいる店主も多いようです。**

## \* 観光業では

山梨のホテルは、マスクやフェイスガードの着用や、非接触型温度計の設置やアルコール消毒の利用が勤務する人にとっては当たり前のことになりましたが、小さい声だとお客様がこちらの説明が聞こえづらいようだし、こちらが笑顔で接しても相手には伝わりにくくて、寂しい気持ちになります。でも、**お客様が利用して下さるだけでもありがたい**気がします。

一番大変なことは、宿泊客が少ないため、勤務日も当然減ることになり、**ホテル以外のダブルワークをしなければならない**ことです。勤務日の減少で給料はコロナ禍前の半分近くに下がってしまいました。食材も余分に発注することも余らせることもできず、お客様が密にならないように気を配りつつ、自分が大声を出さないようにしなければならず、本当に対応が大変でした。

9月までの緊急事態宣言が解除されてからの方が、さらに急激な訪問客増に対応するのに、現場は本当に大変です。

## パネル「見えない家事・育児」

### ① 「見えない家事・育児」

#### ■見えない家事とは

家事というと「料理」「洗濯」「掃除」のようなものを思い浮かべるでしょう。しかし、洗剤の補充、ストックの管理、夕飯の献立を考えるなど、細かな家事には明確な名前のないものがほとんどです。このような家事のことを「見えない家事」といいます。

## 見えない家事を考える

R3年6月「パネル展」にて来場者の方にも見えない家事を考えていただきました。



さらにネットで検索

#### 【コロナ禍での(新)名もなき家事】 ダイワハウス調査

- ・ マスクの手洗い
- ・ 手やテーブルなどの消毒
- ・ マスク・消毒液・ペーパーの在庫管理・補充
- ・ 検温や家族の体調管理
- ・ 子どもへのマスク着用の管理(屋外では外していいなど)
- ・ テレワーク中の配慮



最近では、共働き夫婦も増え、女性が家事をするというものだという意識は薄れてきています。しかし、依然として家事・育児の負担は女性に偏っているのはこうした見えない家事を女性が担っているからではないでしょうか。このような「見えない家事」も夫婦で分担していくことで、家庭内での男女共同参画が進んでいくでしょう。